

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2023年第39週 (9月25日～10月1日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2023年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	238	10496
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢	1	28
腸管出血性大腸菌感染症	90	2829
腸チフス	1	31
パラチフス	1	8
[4類]		
E型肝炎	6	419
A型肝炎	1	38
エキノコックス症		11
エムボックス ¹⁾	1	199
オウム病		7
回帰熱	3	21
コクシジオイデス症	1	2
重症熱性血小板減少症候群	4	117
チクングニア熱	2	4
つつが虫病	2	117
デング熱	13	113
日本紅斑熱	20	346
日本脳炎		2
ブルセラ症		1
マラリア	2	22
ライム病	3	26
レジオネラ症	65	1687
レプトスピラ症	5	32
[5類]		
アメーバ赤痢	6	385
ウイルス性肝炎 ²⁾	7	190
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	36	1489
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	1	45
急性脳炎 ⁵⁾	15	414
クリプトスポリジウム症		8
クロイツフェルト・ヤコブ病	3	120
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	13	618
後天性免疫不全症候群	11	698
ジアルジア症	2	34
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	421
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	13
侵襲性肺炎球菌感染症	22	1306
水痘 (入院例に限る)	5	278
梅毒	214	11260
播種性クリプトコックス症	1	127
破傷風	3	78
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	93
百日咳	14	697
風しん		11
麻疹		26
薬剤耐性アシネトバクター感染症		11

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	47346	9.57
新型コロナウイルス感染症	43705	8.83
RSウイルス感染症	718	0.23
咽頭結膜熱	5698	1.81
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6194	1.97
感染性胃腸炎	9725	3.09
水痘	321	0.10
手足口病	5557	1.77
伝染性紅斑	32	0.01
突発性発しん	790	0.25
ヘルパンギーナ	2128	0.68
流行性耳下腺炎	152	0.05
急性出血性結膜炎	11	0.02
流行性角結膜炎	620	0.89
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	11	0.02
無菌性髄膜炎	12	0.02
マイコプラズマ肺炎	21	0.04
クラミジア肺炎 ⁸⁾	1	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁹⁾	2	0.00
インフルエンザ (入院患者)	252	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者) ¹⁰⁾	2011	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。10) 2023年9月25日より届出対象。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	▲	沖縄、千葉、大分
新型コロナウイルス感染症	▼	愛知、熊本、茨城
RSウイルス感染症	▼	山形、福島、岩手
咽頭結膜熱	▲	福岡、沖縄、大阪
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	鳥取、福岡、埼玉
感染性胃腸炎	▲	大分、香川、福井
手足口病	▲	佐賀、新潟、宮崎
伝染性紅斑	▼	岩手、島根、茨城、東京
ヘルパンギーナ	▲	佐賀、福岡、山形
流行性耳下腺炎	▼	福島、香川、愛媛、宮崎
マイコプラズマ肺炎	▲	青森、岩手、奈良

◆腸チフス、細菌性赤痢、コレラの3つの感染症によるアウトブレイク疑い (コンゴ共和国)

7月17日、コンゴ共和国保健人口省は腸チフス、細菌性赤痢、コレラの3つの感染症を原因とする腸管感染症のアウトブレイクの疑いを発表した。8月29日、合計2389の疑い例が報告され、うち52例が死亡している。